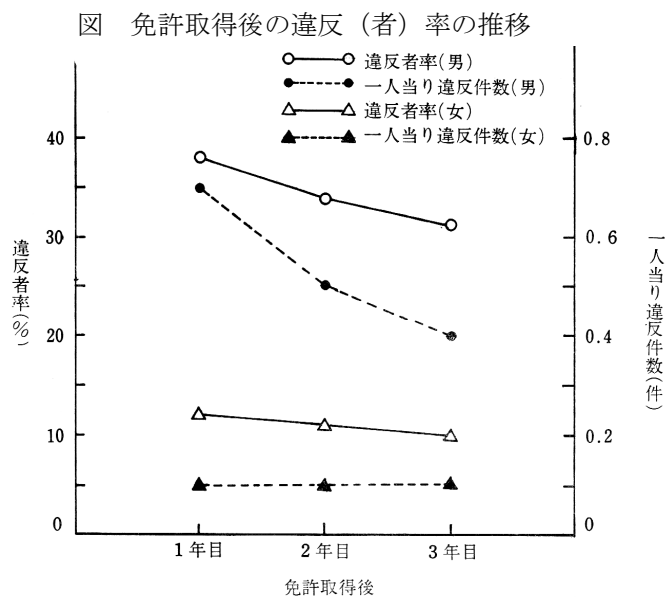


初心運転者の実態に関する調査研究（Ⅱ）（昭和 55 年度）

初年度（昭和 53 年度）の調査研究において、運転経験の有無が違反や事故の要因として関係していること、一方で、違反や事故を惹起した者は運転適性など個人の資質の面でも問題があることが確かめられた。そこで、今後の運転者教育に反映させることを目的として、初年度において調査対象とした初心運転者の事故、違反の実態を追跡調査した。

- ① 初心運転者の免許取得後 3 年間の追跡調査の結果、得られたサンプルは 28,528 人（うち男性が約 60%）で、年齢別には男性が 20 歳未満で 47.5%、女性が 20～29 歳で 43.9%と最も構成率が多い。交通違反について、違反者率（全運転者の中で 1 件以上の違反をした者の割合）は 48.1%、1 人当り平均違反件数で 1.08 件である。性別では違反者率が男性で 63%、女性で 26%、1 人当りの平均違反件数は男性が 1.6 件、女性が 0.4 件である。年次別推移を見ると、免許取得後 1 年目が最も多く、次第に減少する（図）。30～39 歳の減少傾向が顕著であるが、女性についてはこのような傾向はみられない。4 回以上交通違反をした者は 14%しかみられないが、これらの運転者によって全違反件数の 46%が引き起こされている。



- ② 人身事故については、事故者率が 3.4%、1 人当たり平均事故件数が 0.035 件である。性別では男性が 4.7%、女性が 1.5%であり、男性は、20 歳未満と 50 歳以上、女性は 20 歳未満と 30～39 歳の年齢層の事故者率が高い。死亡事故は男性で 15 人（11 人が 20 歳未満）、女性で 2 人見られた。年次別推移をみると、男性の場合、免許取得後 1 年目の事故者率 3.1%が 3 年目には 1.8%に低下している。

また、免許取得後 3 年間で運転免許の取消処分を受けた者は 295 人（男性 286 人、女性 9 人）見られ、男性は 20 歳未満が 65.4%を占める。

- ③ 運転適性と事故・違反の関係では、総合判定で劣る評価を受けたグループや総合判定が優れていても状況判断力と精神安定度の劣るグループの違反が多い。反対に、状況判断力と精神安定性の評価が優れているグループの違反は少ない。人身事故については総合判定で劣るグループ、状況判断力と精神安定度の劣るグループの事故者率が高い。3 年間の「無事故無違反グループ」と「事故違反グループ」の適性検査成績を比較した結果、総合判定、状況判断力、動作の速さ、精神安定度、攻撃性、協調性の要素について「事故違反グループ」の成績が悪かった。
- ④ 技能教習時限数は、年齢が高くなるに従って多くなる傾向を示す。女性は男性より全技能教習時限数で平均 11 時限多く、特に第 3 段階では 4 時限も多い。全技能教習時限数と違反の関係についてみると、20 歳未満の運転者であって教習進度の速いグループでも、適性類型からみて総合判定、状況判断力、精神安定度の優れているタイプは違反が少ない。反対に、総合判定で劣るタイプ、総合判定で優れていても状況判断力と精神安定度の劣るタイプに違反が多い。